

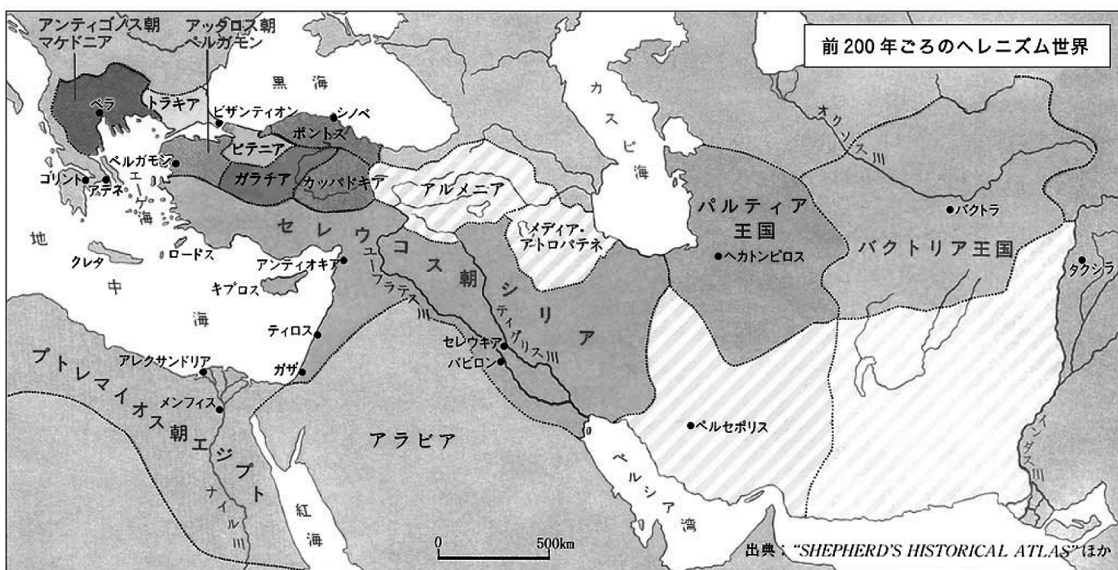
地域アンシエーションの芽(85)

京都大学名誉教授 本山美彦

種子をめぐる勢力(31)

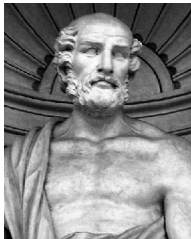
ヘレニズム文化

「ヘレニズム」(Hellenis-
is)という言葉はよく耳
にするが、その定義は確
立したものではない。
古代のギリシヤ人は、自
らを「ヘレネス」(Hellenes)



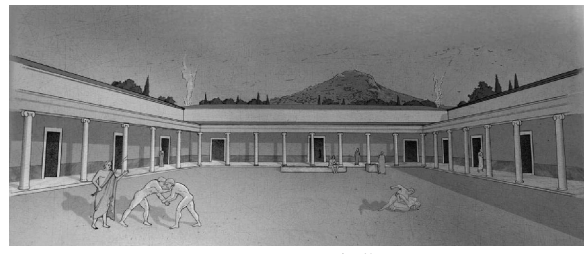
「ヘレニズムの時代」(Hel-
lenistic Period)とは、「アレ
キサンダー大王」(Alex-
ander the Great, BC356-
BC323)の死亡年から「プ
トレマイオス朝」(Ptolemaic
Dynasty, BC303-BC30)
の滅亡年(クレオパトラ
Cleopatra VII, BC69-BC30)
が最後の女王(までの約
300年間のギリシヤ全
盛時代を指す。紀元前30
年にローマに滅ぼされた
が、文化的には大きな
影響力を世界に発信
し続けた。

テオプラストス



テオプラストス

しかし、図解による植
物の説明のやり方に強力
な反対者が立ちあはだか
つた。
アリストテレス(Aristo-
tle, BC384-BC322)から
アリストテレスがBC33
5年に創設した学堂「リ
ュケイオン」(Lykeion, 現
在のフランスの高等学校。
「リセ(Lyceum)」の語源)の
後継学頭に指名されてい
た「テオプラストス」(The-
ophrastus, BC371-BC287)
である。



リュケイオンの想像図

テオプラストスは、アリス
トテレスの失踪後、リュケ
イオンを35年間運営し、
繁栄させた。流麗な語り
口で魅力的な講義を行な
い、面見の良い人柄も
相まってアテネ市民や学
者、学生たちに親しまれ
た。85歳でテオプラスト
スが死ぬと、多くのアテネ
市民が、彼に敬意を表し
葬儀に参列した。

テオプラストスは、植物
学の業績で秀でていた。彼
の植物研究は、基本的に
はアリストテレスの動物
のごとく語る「プラストス」
(Plastos, 人)という意で
ある。本名は、ティルタマス
(Tyrtaimos)であった
(https://ja.wikipedia.org/
wiki/テオプラストス)。

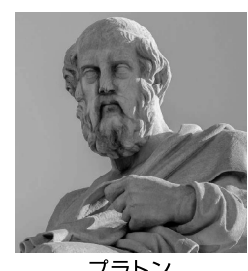
植物図解が始まった

現在の「トルコ」は、20
22年に英語表記を変更
した。これまでの「Turkey」
(ターキー)ではなく「Ere-
trea」(エレルキエ)にした
のである。
トルコの北部に「ポント
ス」(Pontus)という地域
がある。
紀元前の終わり頃、台
頭するローマの支配に抵
抗し、ヘレニズムの文化を
護ろうとしていた「ポント
ス」王ミトリダテス6世
(Mithridates VI of Pon-
tu, BC120-BC63)がいた。
この王国は、最終的にはロ
ーマによって滅ぼされたの
であるが、この王の侍医に
「クラテウアス」(Crateus)

という「薬理学」(Herb-
ology)の権威者が
いた。クラテウアスの描い
た植物図は、現存する最
古の植物図である。その
図には、植物の分類と葉
効の説明もつけられてい
た。現在残っている彼の図
は、紀元500年頃に作
成された複製である(https://www.britannica.com/biography/Crateus)。
クラテウアスの葉草画は、
写実性の高いものであ
った。クラテウアスは、複雑
な構造を持つつうえに、類
似性が高い生物を紹介す
るには、図解が重要であ
る。図解こそ、千言万語
を費やした説明に勝ると
力説し、実践したのである。



クラテウアス



プラトン

テオプラストスは、若い
頃から「プラトン」(Plat-
o, BC427-BC347)に師事
していた。ちなみに、プラ
トンというのは通称であ
り、肩幅の広い体格の立
派な男という意味である。
プラトンの本名は、「アリ
ストクレス」(Aristocles)
である。

テオプラストスによる 生物画像への批判

テオプラストスは、クラ
テウアスの画像重視の姿
勢を罵倒した。
すべての学問は、「筋道
の通った言葉」(ロゴス、
logos)で表現すべきである。
しかし、絵画術は、実物
が表現している真実を語
るのではなく、真実らし
きものを表そうと、ロゴス



プラトン時代のアカデメイアを描いたモザイク画

の真似事をしただけのも
のである。絵画は、真実の
影を映すだけの作業でし
かない。哲学者たるもの、
知恵を愛さなければなら
ない。真の真実があるに
もかわらず、哲学者は、
そこから目を背けてはな
らない。ロゴスこそ、学問の
知恵である。ロゴスを正確
に使用することによって、
魂を不断に浄化すること。
これが哲学の真髄である。
ところが、絵画術はそう
ではない。絵画術を重視
する者は、知恵の軟弱者
である(https://umdb.u-
mu-tokyo.ac.jp/Dkan-
kouh/Publish_db/2004-
SystemaNaturae/h_11-
01.html)。
以上が、テオプラストス
による悪しきまな画像批
判である。
これこそ、中身の無い単
なる罵倒である。ここに
は、独断と偏見で「ロゴス」
という言葉が使用されて
いるのにすぎない。
現代でも、「科学」とい
う言葉が、主流派への批
判者を排除する目的で
多用されている。主流派
は、わずかな事実を過大
に喧伝して、自分たちを
「科学者」に位置づけ、批
判的精神を失ってしまっ
ている。
ちなみに、物理学や天
文学などの理系の学問と
は異なる「人文科学」は、英
語で「humanities」と表現
される。その用語で、哲学、
文学、歴史、言語学、芸術
など、人間が築いてきた
文化や思想を研究する
学問分野が表現されてい
るのである。「科学」とい
う言葉は使われていない。
これが、近代の学問であ
る。
アリストテレスが推奨
した後継者によって批判
されたヘレニズム時代の生
物画像は終わった。再現
されるのは、16世紀まで
待たねばならなかった。満
面開花するにはそれより
もさらに300年後の
ことであった。ロゴスの呪
縛はそれほど強かったの
である。